

■ドイツ：再エネの急増と原子力の閉鎖で系統運用が困難化

ドイツの電気事業規制を担当する連邦系統規制庁は 2013 年 6 月 28 日、昨冬の電力需給状況を取りまとめた報告書を公表した。ドイツでは、福島原発事故後の原子力発電所（8 基）の閉鎖によって、冬季需給のひっ迫が続いており、同庁はその状況を説明する年次報告書を取りまとめている。同庁では今回の報告書の公表に際して「去年は暖冬であったため緊迫した状況は少なかったが、決して安心して良い状況にはない」と語っている。報告書は、2012 年 12 月に風力発電量の増加で最大 850 万 kW の余剰電力が発生した事例と 2013 年 2 月に太陽光発電の出力予測の誤りから大量の余剰電力が発生した事例を取り上げ、出力変動が激しい再生可能エネルギーが増加する中で、系統運用がますます難しくなっている状況を語っている。特に南部は閉鎖された 8 基の原子力発電所が立地していた地域であり、その需給調整は非常に厳しい状況にある。同地域の電源は 2013～15 年の間にはさらに減少するとみられており、その影響はドイツ南部にとどまらず、全土に及ぶ可能性がある